

発刊に寄せて

鶴 田 早 苗

「活水論文集—看護学部編」の初刊発行にあたり、お祝いを申し上げます。

活水女子大学看護学部は2009年4月に大田市、国立病院機構長崎医療センターの支援を受けて、キリスト教精神を基盤にし、長崎県内で3つ目の看護系大学として開設され、完成年度を迎えることになりました。看護職を目指した学生も、順調に育っているようでうれしい限りです。振り返れば、在籍している全教員が協力して基礎看護学実習等に臨んだことが懐かしく思い出されます。その後は、さまざまな教育・研究背景をもった教員に着任していただき、今日の看護学部の教育・研究体制の基礎が築かれました。

この4年間の各教員の研究成果は、毎年発刊する年報に掲載して参りました。看護研究は研究対象が人間であることが多いため、当初から全学の倫理委員会への申請はほとんど看護学部の教員で、他学部の先生方へも刺激を与え続けていると自負しています。

第一号には、これからの活躍が期待される若手の先生が投稿されたことを、まことに嬉しく思います。先生方は毎日の実習指導並びに授業や学生指導に大変お忙しい中での研究への取り組みであったろうと推察され、その取り組みに心から敬意を表します。

さて、これからの看護を学ぶ学生の授業内容や実習指導法は日々進化しています。医療・保健・福祉が大きく変化、発展している現在、ますます工夫、改善がなされなければならないでしょう。また看護学の領域も拡大され、教員は広い視野から専門領域の探求、研鑽が求められると思います。そのためには、その裏づけとなる日々の研究的取り組みがますます重要になると考えます。

本学部は、開設初年度から文部科学省研究事業「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」（代表校：福岡県立大学）—「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」に、連携する九州・沖縄の看護系13大学の1カウンターパートとして参画してきました。このことはFD（Faculty Development）への認識を高めるとともに、他大学の教員との交流や様々な共同研究の機会となり、看護学部にとっては大きな財産になっています。

看護学部のますますの発展とよりよい研究環境を整え、教育や看護の発展のためにご活躍されることを期待しています。最後に、論文集発行にあたり、担当された先生方に感謝申し上げます。